

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年7月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 8
4 対日動向	・ ・ ・ 11
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 16
6 軍事交流	・ ・ ・ 19
参考文献	・ ・ ・ 21

中国軍事動向月報：2025 年 7 月

2025. 8. 7

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

7 月は、野外訓練の報道が多く確認された。多数の部隊が長距離機動訓練や、海上訓練を行った。また、野外訓練の増加に伴い、訓練時の後方支援要領の改善の報道も確認された。

台湾周辺においても軍用機の活動ソーティー数が本年最大であり、活発化している。また、東沙海域では本年に入り月 1 回海警船 1 隻による制限水域進入が定例化されていたが、7 月は 3 回、その内 2 回は海警船 2 隻による活動が確認された。7 月 9-18 日まで、台湾では漢光演習が実施されており、この間の東沙における台湾側の戦備態勢を確認するために活動回数・隻数を増加させた可能性もあるが、漢光演習を契機にエスカレーションラダーを上げた可能性も否定せず、来月以降の活動状況が注目される。

日本周辺では、台湾漢光演習に関連した可能性のある無人機の飛行が多く確認された。また、東シナ海上の公海上空において、警戒監視を行っていた航空自衛隊の Y S - 1 1 E B 情報収集機に対し、中国軍の J H - 7 戦闘爆撃機が接近する飛行を行い、この際、特異な接近を行った。

南シナ海においては、中国海軍による戦備警戒パトロール、中国海警による法執行パトロール等により、引き続きフィリピン（以下、比）への威圧を継続した。また、中比双方がお互いに危険行為を喧伝し、非難しあうという構図も継続している。

軍事交流においては、中越間で初の陸軍による共同訓練が実施された。過去に国境地帯で軍事的衝突をし、現在も南シナ海領有権を争っている両国であるが、中国は米との関係を深める比を ASEAN で孤立化させることを狙っており、越との関係強化を図り、初の陸軍共同訓練に至った可能性がある。

2 各軍等

(1) 全 般

- 「良き伝統を大いに発揚し、害毒の影響を徹底的に排除する、政治幹部のあるべき姿と威信の再構築に関する規定」の公布を発表¹

7月21日、中央軍事委員会は「良き伝統を大いに発揚し、害毒の影響を徹底的に排除する、政治幹部のあるべき姿と威信の再構築に関する規定」公布を発表した。

同規定は、政治幹部に対して政治的忠誠の強化、党の原則の厳守、公正な人事、遵法姿勢の率先垂範等により隊員の信頼を回復するよう規定している。

【コメント】

6月に苗華中央軍事委員会委員・中央軍委政治工作部主任（当時）の中国人民共和国中央軍事委員会委員の解任が公表された。更に多くの高官が既に処分を受け、または公的な場から姿を消している。

全軍の政治工作部門のトップである苗華の「重大な規律違反」及び多数高官の処分は人民解放軍が党の軍隊であるという事実を揺るがしかねない問題であり、党の意向を部隊に徹底する役割を担う政治幹部の信頼回復が必須であると認識していると思われる。

- 中国兵器工業集団の無人・対無人作戦システム展示会²

7月21日、中国兵器工業集団の無人・対無人作戦システム展示会の状況が報道された。多種多様の無人装備、対無人防御システムの展示に加え、攻撃型無人機の突撃の様子が報道された。

日本の国旗に似た標的への無人機攻撃



（出典：央視新聞20250721）

展示された対無人機一体化総合防空システム



（出典：CCTV軍事報道20250721）

【コメント】

中国兵器工業集団は装甲車、戦車、水陸両用車、無人偵察機等の航空機、ミサイル、爆弾等を生産しており、傘下の中国北方工業公司は陸上装備生産では中国最大の企業である。

今展示会では、無人機だけでなく、対無人機装備も多く展示されており、攻防両面での研究開発を推進している状況が確認された。

○ 野外訓練後方支援体制の変化³

野外訓練後方支援体制の変化

訓練支援体制

- 背景：実戦化訓練の強度が上昇、訓練支援への要求も増大
- 中央軍委訓練管理部の取り組み
 - ◇ 全軍統一基準に基づき、訓練基地の建設・使用・管理を網羅した3段階支援モデルを創設
 - ◇ 基礎・合成・統合訓練毎に重視事項に応じた最適な支援モデルを構築
 - ◇ 同モデルを全軍に普及させ、集約的効率的な実戦化訓練を推進

(解放軍報20250721)

訓練時の後方支援の変化

- 天幕を1か所に整列させ展張する方式を廃し、小部隊が地形に応じ、選定した場所に分散して宿営
(陸軍部隊・ロケット軍部隊：解放軍報20250703)
- 宿営時に天幕ではなく、指揮・倉庫・食事・宿泊機能を備えた4台1組の移動兵站コンテナやトラック車載宿営設備を使用
(ロケット軍部隊：解放軍報20250703, 空軍部隊：解放軍報20250715)
- 陸海軍協同上陸訓練時、陸軍部隊の隊員が海軍艦艇の温食を喫食可能
(陸軍部隊：解放軍報20250715)

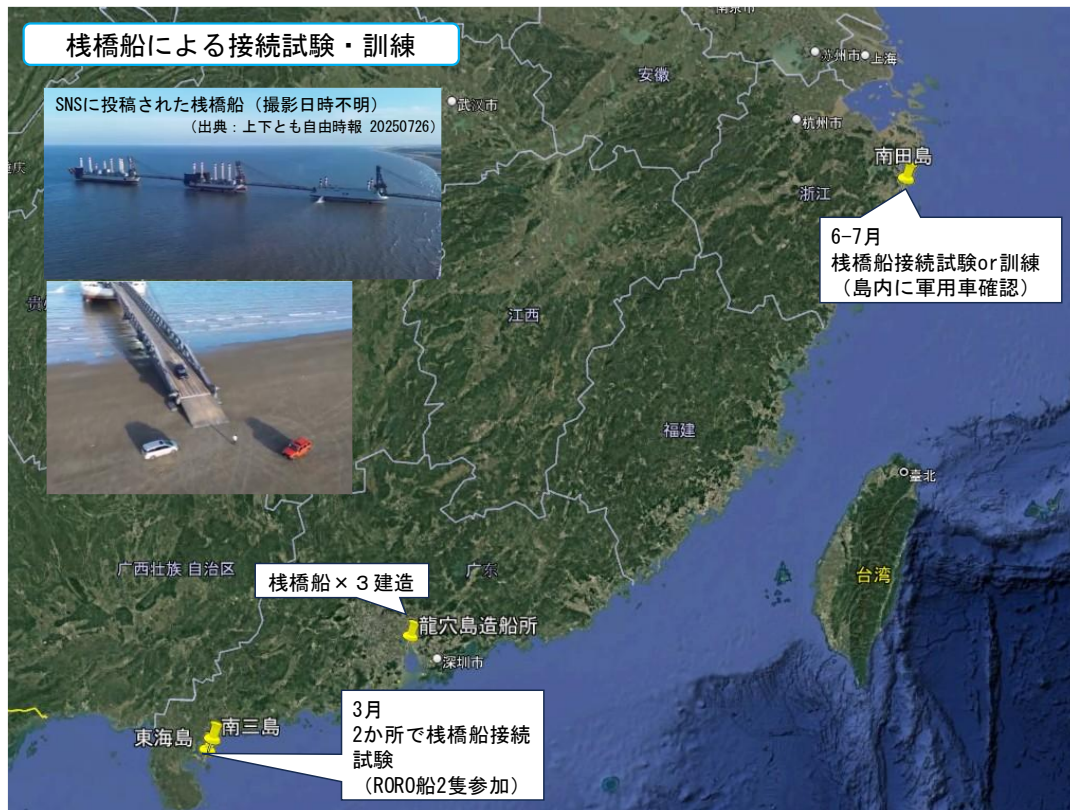
- 迅速な陣地転換・分散防護等台湾侵攻時の実状況を想定した後方支援体制を追求
- 隊員の訓練時の食事面の改善等の後方支援が取り上げられるのは、訓練練度が戦術的要求を満たしつつある証左とも言える



(2) 陸軍

○ 栈橋船による接続試験・訓練

3月に広東省海岸で運用試験を行っていた栈橋船3隻が台湾侵攻を担当する東部戦区内で接続している状況が衛星画像及び SNS への投稿で確認された。



栈橋船による接続試験・訓練（南田島）

7/3, 南田島海岸で接続訓練



SNSに投稿された栈橋船（撮影日時不明）



(出典：自由時報 20250726)

3隻はそれぞれ船体に「東工401」「東工402」「東工403」と記入

- 「東工」は「東部戦区海軍作業船」を意味すると思われる、既に就役又は就役前の最終試験の可能性があり
- 島内に大量の軍用車が確認されていることから、今後部隊との協同訓練をする可能性有

(3) 海軍

○ ドイツ機へのレーダー照射

7月8日、ドイツ（以下、独）外務省は「中国軍が、EUのASPIDES作戦に従事していた独機にレーザー照射を行った。独国民を危険にさらし、作戦を妨害したことは全く容認できない。独外務省は本日、中国大使を召喚した。」とXに投稿⁴。

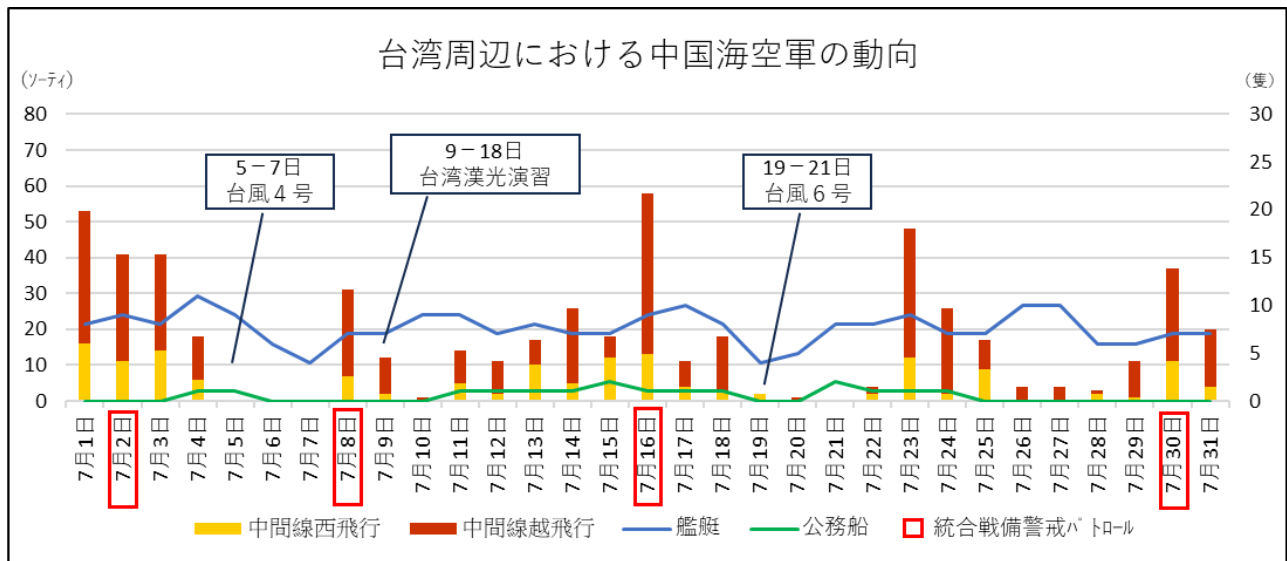
報道によれば、独軍機は、紅海の公海上を航行する商船を守るためのEUの作戦「ASPIDES」に参加。昨年10月から偵察任務を遂行していた。同省報道官によると、この海域を航行していた中国の軍艦が7月初旬、独軍機の通常の任務飛行中に、理由もなく、事前の通告もなくレーザーを照射した。これを受け、この独軍機は予防措置として任務を中断し、ジブチの基地に無事着陸した⁵。

これに対し、10日、中国国防部新聞局は「環球時報」の取材に対し、「独側の発言は事実と全く矛盾している。当時、中国海軍艦隊はアデン湾で護衛任務を遂行しており、紅海で活動しておらず、レーザー機器の使用も行っていない。独側が客観的な事実を尊重し、中国側との意思疎通と協調を強化し、両国両軍の関係の大局を維持することを希望する。」と回答した⁶。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

7月是中国軍機延べ547ソーティー(内、中間線超えが延べ392)、中国艦艇延べ237隻、公務船延べ16隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は58ソーティー、最大中間線超え45ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは4回であった。

【コメント】

7月の中国軍機延べ547ソーティーは今年の最大ソーティー数であり、台風の影響を受けつつも訓練が活発になっている状況が確認された。

また海警船が主となる公務船の隻数であるが、7月は16隻と6月の6隻からやや増加したものの、5月の40隻に比して、低調な活動であった。中韓「暫定措置水域」(PMZ)で活動する海警船の増加や、禁漁期間における漁船対応等の可能性が考えられる。

（２）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 7 月 10 日、11 日、29 日、30 日にそれぞれ 1 回、7 月は計 4 回、中国海警 4 隻が金門周辺台湾制限水域へ入域し、約 2 時間航行し出域した。また、同署は、「最近は以前は接続していた AIS を遮断して入域しており、グレーゾーンにおける騒擾を生起させると共に台湾の監視網を緩めようとしている」と指摘した⁷。

これに対し、海警東海分局報道官は 7 月 30 日、「30 日、福建海警が金門付近海域において法に基づき常態化法執行パトロールを実施した」と発表⁸。

（３）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、中国海警船の動向は以下の通り。

◇ 7 月 2 日 0610、中国海警 3302 が東沙北西 26 カリの制限海域に進入、台湾海巡署は巡視船を派遣し、3 日 0124 に東沙東方 34.5 カりに離脱させた⁹。

◇ 7 月 9 日、中国海警 3101 が東沙管轄水域方向へ航行しているのに海巡署巡視船が対応し、11 日に東沙北西 26 カリで制限水域から出域。また 10 日には海警 5303 が東沙管轄水域方向へ航行しているのに対応し、離脱させた。海警船は AIS を遮断していた¹⁰。

◇ 7 月 16 日 0050、中国海警 3105 が東沙南方 25 カリで管轄水域に進入、海巡署巡視船が東沙南方 19.7 カリで対応中のところ、0117 に東沙南方 22 カリで中国海警 3103 が航行。海警 3105 と 3103 は同日 1135 に東沙海域から離脱。海警船は AIS を遮断していた¹¹。

【コメント】

金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4 隻で台湾制限水域に進入し 2 時間航行、というパターンで継続しており、7 月も同様の活動が確認された。

一方、東沙海域では本年に入り月 1 回海警船 1 隻による制限水域進入が定例化されていたが、7 月は 2 日に 1 隻、9－11 日に 2 隻、16 日にも 2 隻の海警船が東沙海域で活動しているのが確認された。（台湾海巡署の公表では「管轄水域」と「制限水域」と二つの表現を使用しており、全隻が制限海域に進入したかは不明）。

7 月 9－18 日まで、台湾では漢光演習が実施されており、この間の東沙における台湾側の戦備態勢を確認するために活動回数・隻数を増加させた可能性もあるが、漢光演習を契機にエスカレーションを上げた可能性も否定せず、来月以降の活動状況が注目される。

(4) 台湾海峡上の新航路運用開始

7月6日、中国民用航空局は「空域環境の整備及び運航効率向上のため、民間航空機の M503 航路 W121 支線の運用を即日開始する」と通知¹²。

これに対し、同日、台湾の交通部民航局は遺憾の意を示すとともに、これまでの共通認識に基づいて速やかに台湾との協議に応じるよう、中国に要求した¹³。



(資料源：CAN20250706に日本語部分は筆者が追記)

【コメント】

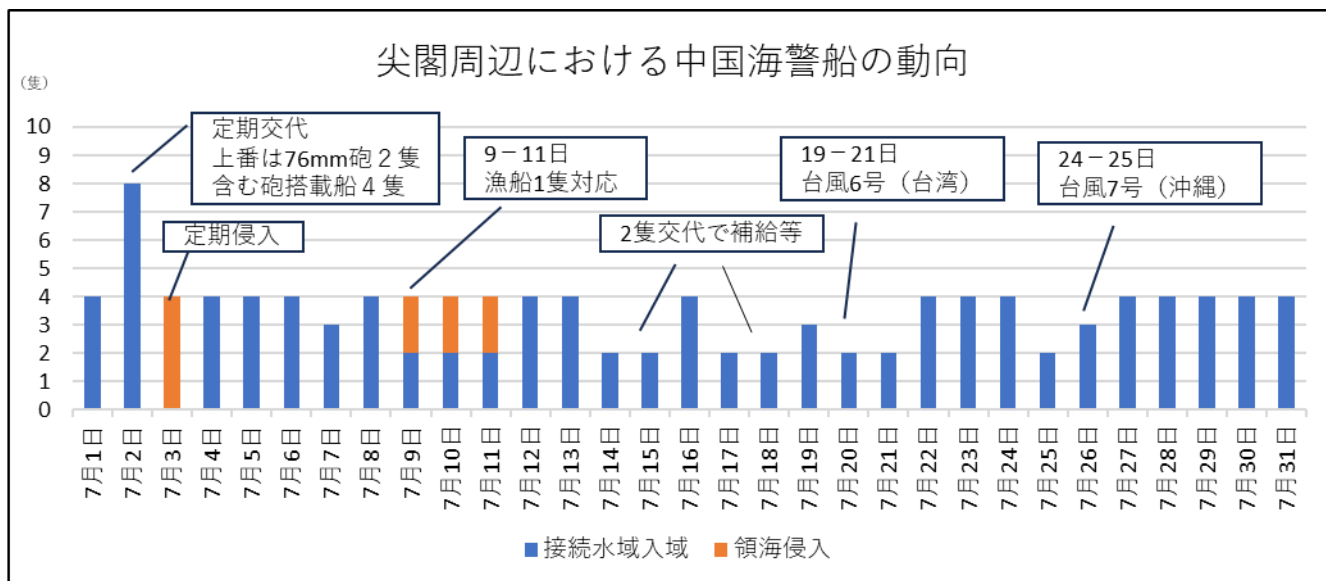
中国は2015年以降、一方的に台湾海峡上の航路を拡大しており、台湾はグレーゾーンのハラスメントとして強く反発している。

今回、唯一東方向、即ち台湾方向への運航を行っていなかった W121 航路の東方向運航も開始され、台湾対岸の3ヶ所空港から台湾方向へ日常的に航空機が運航することになった。中国の空港は軍民共用で使用されることも多く、また2016年に制定された国防交通法により民間機の軍徴用も可能なことから侵攻兆候の曖昧化や台湾防空網の疲弊を企図したものと思われる。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

【コメント】

7月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

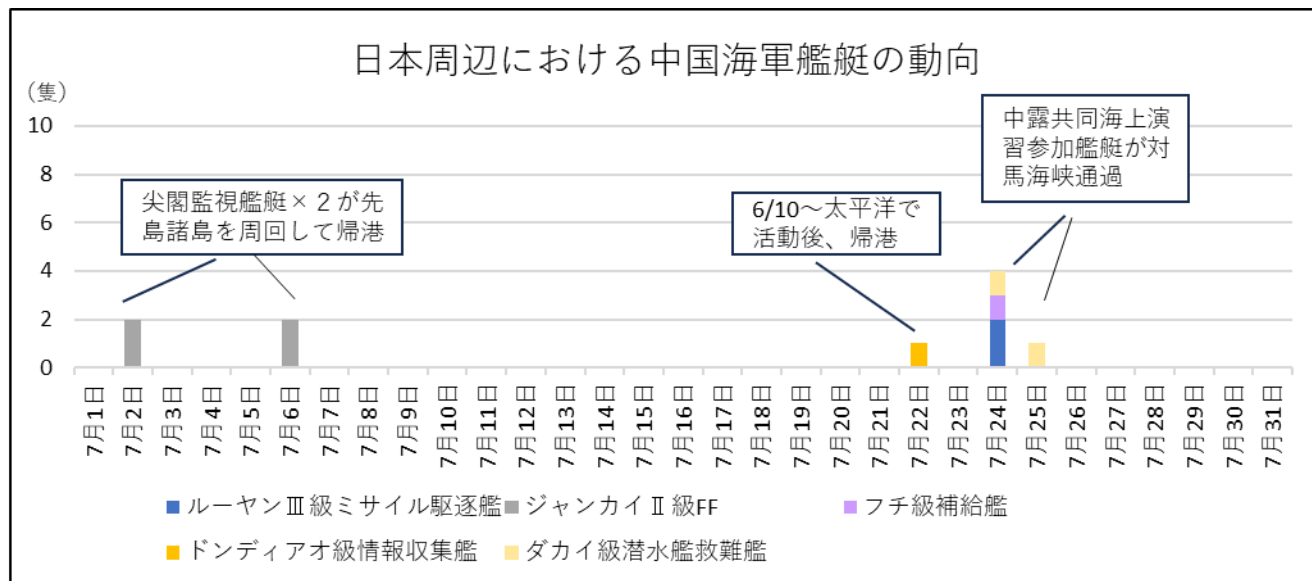
定期交代は2日、定期侵入は1回であり、交代後の定期侵入で通常のパターンに戻った。

9-11日に日本漁船1隻に2隻が領海侵入し、対応した。これに対し、7月11日、中国海警局報道官は「9日、日本の瑞宝丸が赤尾嶼（筆者注：大正島の中国名）領海に侵入、中国海警は法に基づき必要な措置を採り警告駆逐した」と発表。

台風6号と台風7号の接近時、先島諸島の波高は約5mであり、1000t級の海警1106・1109は荒天避退したものの、3000t級の海警1304・1306は接続水域での航行を継続した。7月31日現在で尖閣周辺の海警船の航行は255日連続になり、過去最長を更新している。海警船の大型化や航行技術の向上による可能性がある。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



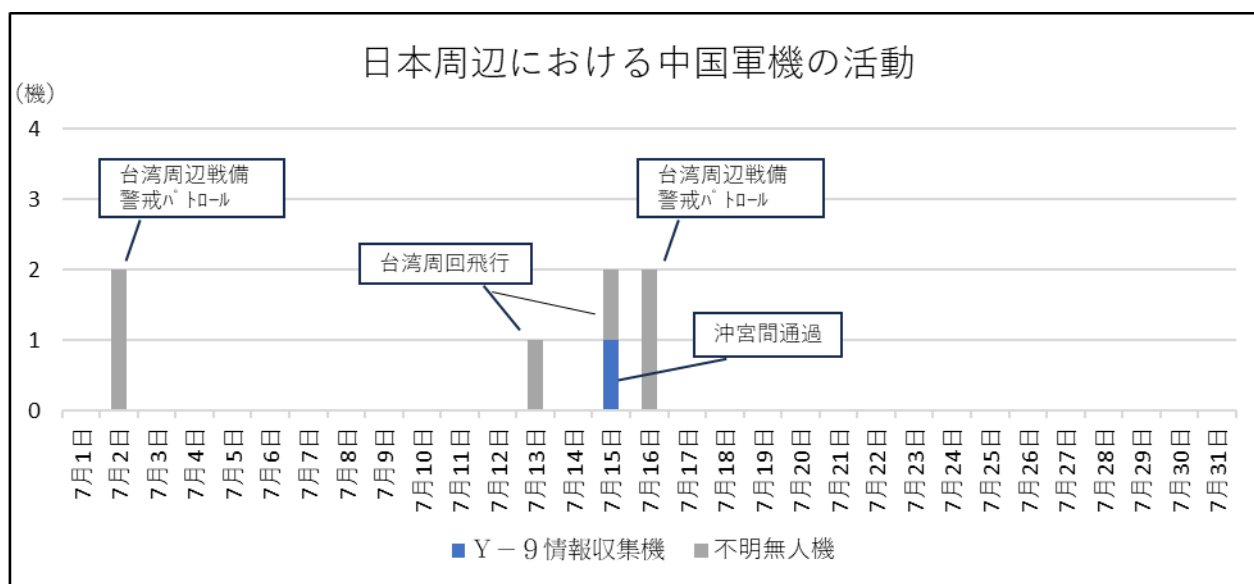
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

【コメント】

延べ10隻であり、2コ空母編隊の訓練があった6月に比して大幅に減少した。

尖閣諸島では海警編隊が7月2日に定期交代を行ったが、同時期に尖閣諸島北方で監視を行っていた東部戦区海軍のジャンカイⅡフリゲート2隻も交代し、訓練及び情報収集を兼ねて先島諸島を周回後に帰港した可能性がある。

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

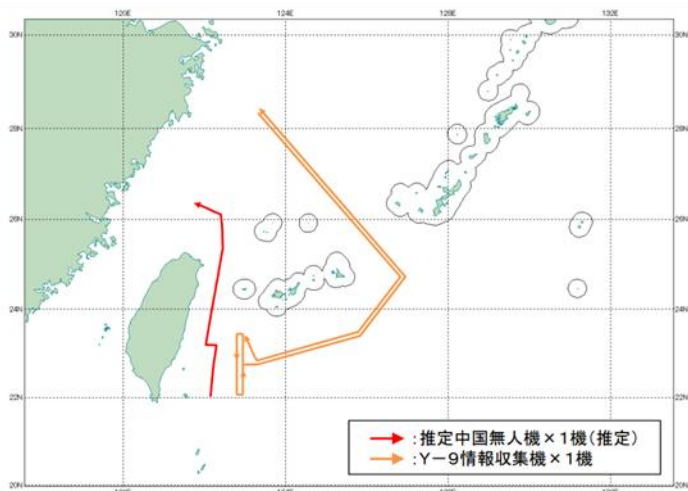
【コメント】

延べ7機の活動が確認された。

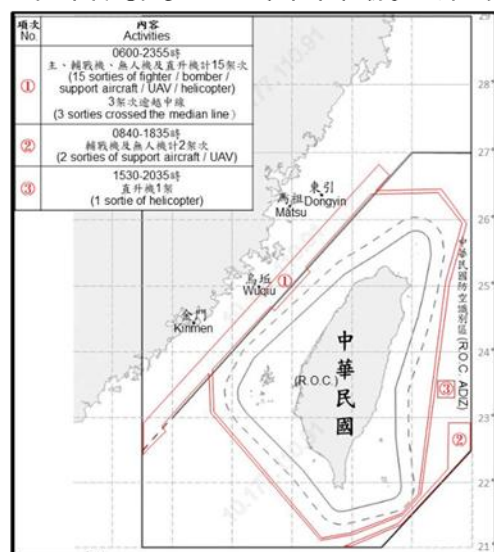
不明無人機6機は、台湾周辺での戦備警戒パトロール等で台湾を周回する航跡で飛行した機体への対応であった。9－18日まで台湾で漢光演習が実施されたため、情報収集のための無人機の活動が活発であった可能性がある。

また、15日はY-9情報収集機1機が東シナ海方面から飛来し、沖縄本島と宮古島との間を通過して太平洋に至り、太平洋上を与那国島沖まで飛行した後、旋回・反転し、再び沖縄本島と宮古島との間を通過し、東シナ海に至った。同機と不明無人機は共に午後に下図の航跡で飛行したことから、情報収集機は無人機と連携訓練や、無人機への日本へ対応について情報収集した可能性がある。

7/15、日本周辺の中国軍機の航跡



7/15、台湾周辺の中国軍機の航跡



○ 中国軍機による自衛隊機への特異な接近

7月10日、防衛省は以下の通り発表¹⁵。

「7月9日10時50分頃から11時5分頃の約15分間、東シナ海上の公海上空において、警戒監視を行っていた航空自衛隊のYS-11EB情報収集機に対し、中国軍のJH-7戦闘爆撃機が接近する飛行を行い、この際、特異な接近（水平距離約30m、垂直距離約60m）を行う事案が発生した。また、10日10時頃から10時10分頃の約10分間にも、東シナ海上の公海上空において、警戒監視を行っていた航空自衛隊のYS-11EB情報収集機に対し、中国軍のJH-7戦闘爆撃機が接近する飛行を行い、この際、特異な接近（水平距離約60m、垂直距離約30m）を行う事案が発生した。このような中国軍機の特異な接近は、偶発的な衝突を誘発する可能性があり、深刻な懸念を表明し、再発防止を厳重に申し入れた。」

これに対し、中国国防部報道官は記者の問いに対し、以下のように発言¹⁶。

「最近、航空自衛隊の偵察機が中国の東シナ海防空識別区に何度も進入し、近接偵察を行っている。中国軍機は法に従いこれらを識別、追跡監視しており、関連する処理措置は完全に合法、合理的、プロとしての規範に従っている。日本の艦艇・航空機による中国への近接偵察と嫌がらせが中日間の海空安全保障上のリスクの根本原因である。日本が中国に歩み寄り、両国関係の安定的な発展に向けた雰囲気を醸成することを望む。」

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日本が国内で対艦ミサイル実射を実施¹⁷ 解放軍報 20250703

6月24日、陸上自衛隊が国内で初の対艦ミサイルの実射を実施した。これまで米豪内で行ってきたものを国内で実施するのは、同盟国の訓練場への依頼から脱し、ミサイル運用能力を強化するという野心を暴露するものだ。

○ 日本版スターリンクの構築¹⁸ 中国国際問題研究院 解放軍報 20250711

日本が低軌道衛星コンステレーション、日本版スターリンク構築を目指している。これは日本の宇宙作戦能力を飛躍的に向上させるもので、専守防衛の域を超え、軍事大国化に向かわせるものだ。

○ 日本の比へのあぶくま級護衛艦の輸出計画について¹⁹ 国防部定例記者会見 20250714

第二次世界大戦中、日本軍国主義は中国や比を含む近隣諸国を侵略し、植民地化し、南シナ海の島々を占領し、重大な歴史的罪責を負っている。日本は近年、平和憲法と「専守防衛」の原則に違反し、武器装備の輸出を継続的に行い、「小サークル」を形成して南シナ海情勢をかく乱し、アジア太平洋地域に不安定さをもたらしている。今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年に当たる。我々は日本に対し、深く反省し、歴史から教訓を汲み取り、軍事安全保障分野における言動を慎み、地域の平和と安定の維持に一層努めるよう促す。

○ 防衛白書について²⁰ 国防部報道官の記者への回答 20250716

日本は、軍事的制約を緩める口実として、虚言を弄して「中国の脅威」を煽り、中国の内政に著しく干渉している。中国はこれに対し強い不満と断固たる反対を表明し、日本側に厳重な抗議を行った。（中略）

今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年、そして台湾解放80周年にあたる。1945年の台湾の中国への復帰は、第二次大戦の勝利の成果であり、戦後の国際秩序の重要な構成部分である。われわれは日本側に対し、歴史から深い教訓を汲み取り、中国への中傷や非難をやめ、中日4つの政治文書の内容と台湾問題に関する承諾を切実に遵守し、中日関係の健全で安定した発展を促進するために実際の行動をとるよう促す。

○ 防衛白書は危険な方向性を露呈²¹ 中国現代国際関係研究院 解放軍報 20250721

2025年の防衛白書は中国の脅威を口実に、自衛隊が戦えるメカニズム構築を詳述している。また、「台湾を以って中国を制す」ことを目的に地域情勢に干渉する等邪悪な下心を有している。今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年、そして台湾解放80周年にあたる。

日本は、歴史から深い教訓を汲み取り、軍事安全保障分野での言動を慎むべきである。

○ 日本は防衛協力に名を借りて陣営対立を扇動²² 解放軍報 20250724

日本は比に護衛艦6隻を輸出しようとしているが、これは日本の主力艦輸出の制限を突破するものだ。近年、日本は防衛協力の名の下に平和憲法の制限や専守防衛の原則を逐次突き崩している。

る。背後には米国の黙認があり、米は日本をインド太平洋戦略のお先棒担ぎと見なしているのだ。

○ 宇宙領域防衛指針について²³ 国防部定例記者会見 20250731

中国は日本による中国への中傷・非難に断固反対する。

近年、日本は軍備拡張の道を邁進し、防衛の名の下に宇宙兵器の開発と配備を目指し、宇宙分野で米国をはじめとする西側諸国との軍事協力を拡大しており、周辺諸国は日本の軍国主義の復活を懸念している。

○ 日米拡大抑止協議について²⁴ 国防部定例記者会見 20250731

日本は被爆国として核戦争は戦うことも勝つこともできないということを深刻に認識すべきである。現在、日本の一部の人々が、米国のいわゆる「拡大抑止」をエスカレートさせ、「核シェアリング」を通じて核兵器の導入、さらには使用をも求め、軍拡競争を煽っているおり、極めて危険な傾向である。

【コメント】

自衛隊の能力向上や日米同盟の強化に対し、「抗日戦争・反ファシスト戦争勝利 80 周年」を利用し牽制する手法は継続している。

また、解放軍報や CCTV「軍事報道」等において抗日戦争の英雄の功績を辿り、称える記事や番組が増加しているが、7 月 7 日に習近平中央軍事委員会主席が山西省の「百団大戦記念碑広場」訪問後は百団大戦（1940 年に中国共産党の八路軍が日本軍に対して行った戦闘で、抗日戦争時の八路軍による最大規模の作戦）関連報道が増加。共産党が日本軍に勝利したとの正統性アピールに取り組んでいる。

5 南シナ海動向

○ 海軍・海警の活動²⁵

7月12日、フィリピン沿岸警備隊報道官はXに中国海軍等の動向に関し以下の投稿。

「12日、西ミンドロ島カブラ島沖約69.31海里で、中国海軍艦艇793と164及び中国海警4203を確認。164は比EEZ内でヘリの発着艦訓練を実施」

比巡視船から撮影したトンデ・イオ級情報収集艦793



中国ルン3級ミサイル駆逐艦164と艦載ヘリZ-9



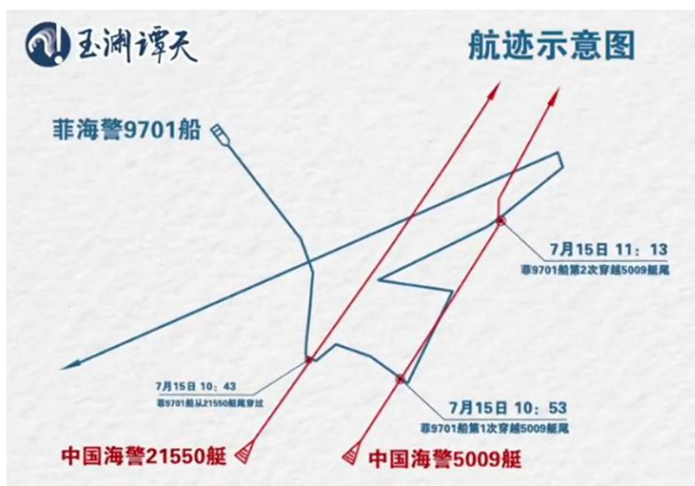
(出典左右共：X：Jay Tarriela20250712)

○ スカボロー礁

◇ 7月3日、南部戦区は「7月3日、南部戦区は海空部隊によりスカボロー礁領海領空及び周辺区域で戦備警戒パトロールを実施。」と発表²⁶。

◇ 7月15日、CCTV傘下の玉淵譚天が「比沿岸警備隊船舶9701がスカボロー礁周辺海域で活動中、中国海警21550・5009に対し高速で100mの位置まで接近する等危険な航行を繰り返した」と投稿²⁷。

中国側が示した中国海警と比沿岸警備隊船舶の航跡



中国側が撮影した中国海警と比沿岸警備隊船舶



(出典左右共：微博：玉渊谭天20250716)

◇ 7月29日、南部戦区は「7月29日、南部戦区は海空部隊によりスカボロー礁領海周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施。」と発表²⁸。

◇ 7月31日、海警局は「31日、中国海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した」と発表²⁹。

【コメント】

中国海軍による戦備警戒パトロール、中国海警による法執行パトロールは継続。また、中比双方がお互いに危険行為を非難しあうという構図も継続している。

7月21日には訪米中のマルコス比大統領とヘグセス米国防長官が会談し、ヘグセス長官は米比相互防衛条約について「南シナ海を含む太平洋のいかなる場所においても、我々の軍や航空機、公船に対する武力攻撃に適用される」と述べ、海洋進出を強める中国に対抗し、フィリピンの防衛に関与する姿勢を強調した。

これに対し、中国外交部報道官は29日の記者会見で、「中国は比に対し、他国と共謀して海洋問題で緊張をあおり、自分を棚に上げて他を非難するのをやめるよう忠告する」と述べている³⁰。

同じ29日に南部戦区が戦備警戒パトロールを発表しており、外交部と歩調を合わせて米比の連携を牽制した可能性がある。

6 軍事交流等

(1) 軍事交流

○ コモロ独立 50 周年閲兵式への参加³¹

7 月 7 日、ジブチ保障基地分隊約 50 名がコモロ独立 50 周年閲兵式へ参加した。
中国軍としては初の参加。

行進するジブチ保障基地分隊



(出典：中国軍網 20250708)

○ パキスタン陸軍参謀総長との会見³²

7 月 25 日、張又俠中央軍事委員会副主席は北京で訪問中のパキスタン陸軍のムニル参謀総長と会談した。張副主席は、中国はパキスタンとのテロ対策協力を強化する意向であり、パキスタンにおける中国の人員・プロジェクト・機関の安全確保のため、パキスタンが引き続き必要なあらゆる措置を講じることを期待する旨を表明した。

(2) 共同訓練

○ 中セルビア共同訓練「和平衛士-2025」

7 月 19-28 日、河北省で中セルビア陸軍特殊作戦部隊共同訓練「和平衛士-2025」が実施³³。
これは、中国とセルビア両軍の初めての共同訓練である³⁴。

○ 中越陸軍共同訓練「携手同行-2025」

7月21-30日、中越陸軍共同訓練を広西チワン族自治区崇左江龍訓練基地で実施。両国から合計140名、車両20台、装備170件が参加し、共同偵察・偽装・対無人機・実弾射撃・救護・化学防護・野戦後方支援等の訓練を実施した。30日の閉会式では南部戦区陸軍副司令官陳亮少将が挨拶を行った³⁵。

中越の陸軍が共同演習するのは初めてであり、「国境地域の共同任務執行訓練」をテーマに実施された³⁶。

7/22, 訓練開会式



無人機訓練場での訓練



武器・装備品展示



混合編成での訓練



【コメント】

中越両国は1979・1984年に陸上国境地帯及び1974・1988年に南シナ海で軍事的衝突をしたものの、2006年には両海軍によるトンキン湾海上共同パトロールが開始され、本年4月には、習近平国家主席が越を公式訪問し、「中越外務・国防・治安3+3対話メカニズムを閣僚級にし、適宜の時期に閣僚級初会合を開催」との内容を含む共同声明を発表している。

南シナ海領有権を争っている両国であるが、中国は米との関係を深める比をASEANで孤立化させることを狙っており、初の陸軍共同訓練に至った可能性がある。また、訓練では中国軍が無人機運用を越軍に教授する場面も見受けられ、越に中国軍の装備の優位性を誇示する目的もあったと考えられる。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20250721
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250721/e08f21fc6b05bc09541068a5fd3f49cd.pdf>
- 2 CCTV 軍事報道 20250721
<http://tv.81.cn/zgjs/jsbd/16398083.html>
- 3 中国軍網 20250721
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-07-21&paperNumber=01&articleid=959583
- 4 X:ドイツ外務省 20250708
<https://x.com/GermanyDiplo/status/1942508825895920012>
- 5 ロイター 20250708
<https://jp.reuters.com/world/security/CPUDRZTVANKN7NMNBAEPTTUU44-2025-07-08/>
- 6 環球網 20250710
<https://mil.huanqiu.com/article/4NRKbVlgV9l>
- 7 海洋委員会海巡署 20250730
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165614&ctNode=650&mp=999>
- 8 中国海警局 20250730
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202507/t20250730_2801.html
- 9 海洋委員会海巡署 20250707
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165427&ctNode=650&mp=999>
- 10 海洋委員会海巡署 20250714
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165509&ctNode=650&mp=999>
- 11 海洋委員会海巡署 20250716
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165523&ctNode=650&mp=999>
- 12 中国民用航空局 20250706
http://app.caac.gov.cn/XWZX/MHYW/202507/t20250706_227865.html
- 13 CNA20250706
<https://www.cna.com.tw/news/aip/202507060192.aspx>
- 14 中国海警局 20250711
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202507/t20250711_2790.html
- 15 防衛省 20250710
<https://www.mod.go.jp/j/press/news/2025/07/10a.html>
- 16 国防部網 20250713
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16396631.html>
- 17 解放軍報 20250703
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250703/66bffb93c47f73eff920fe0a0fabddd6.pdf>
- 18 解放軍報 20250711
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250710/8c878e30021e3178537b7ca1be92dcea.pdf>

19 國防部網 20250714
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16396813.html>

20 國防部網 20250716
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16397218.html>

21 中國軍網 20250721
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250721/338fbf6347ce171ca2c683ae37a447dc.pdf>

22 解放軍報 20250724
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250724/845b10d156dcb13af2947656848a0014.pdf>

23・24 國防部網 20250731
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16399671.html>

25 出典：X：Jay Tarriela 20250712
<https://x.com/jaytaryela/status/1943941459658330367>

26 南部戰區微信 20250703
<https://mp.weixin.qq.com/s/Q6gU0z1QruU0hkOFbvzdmQ>

27 玉淵潭天 20250715
<https://weibo.com/u/7040797671>

28 南部戰區微信 20250729
<https://mp.weixin.qq.com/s/-Setw365LOxvVkmbMtoDag>

29 中國海警局 20250731
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202507/t20250731_2802.html

30 中國外交部 20250729
https://www.mfa.gov.cn/web/fyrbt_673021/202507/t20250729_11679055.shtml

31 國防部網 20250707
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/cf/16395674.html>

32 國防部網 20250725
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16398802.html>

33 網易 20250804
<https://www.163.com/dy/article/K64M4SRO0553TJK2.html>

34 國防部網 20250714
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16396772.html>

35 越政府新聞網 20250801
<https://cn.baochinhphu.vn/2025%E5%B9%B4%E8%B6%8A%E4%B8%AD%E9%99%86%E5%86%9B%E8%81%94%E5%90%88%E8%AE%AD%E7%BB%83%E9%97%AD%E5%B9%95-116250731181657395.htm>

36 國防部網 20250720
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16397862.html>

中国軍事動向月報 2025年7月

2025年8月12日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。